

おべ様が行く！（西北地域県民局の巻 その 14）



マー君：わあー、これって新型のアトラクション!? 良いんですか？
 仕事中に遊び場に来て？

おべ様：はははっ。そうだね。今日は天気もいいから、遊んで行こうか、マー君。って違うでしょ。乗り突っ込みしちゃったじゃないか。これは、魚礁（ぎょしょう）っていうんだよ。

マー君：「ぎょしょう」ってなんですか？

おべ様：これを海中 30m 位のところに沈めて、まだ成長途中の魚や、回遊してくる魚の棲家（すみか）になったり、この辺でたくさん獲れるヤリイカが卵を産んだりする場所になるんだよ。

マー君：じゃあ、お魚さんのマンションみたいな感じなの？

おべ様：そうだね。マー君、今日は冴えてるじゃないか。

マー君：テヘッ。でも、こんなところで作って、一体どこの海に沈めるの？

おべ様：おっ。興味が湧いてきたかな？ じゃあさっそく沈める場所に行ってみよう！！

マー君：ヤホーイ、海だー。ってここはどこですか？

おべ様：ここは、風合瀬漁港の沖だよ。漁業が盛んな場所で道の駅でもあるイカ焼き村は有名な場所なんだよ。

マー君：ここでは、どんなお魚が獲れるの？

おべ様：いろいろな種類が獲れるよ。その中でもここでは、ヤリイカやウスメバル等が多く獲れているんだよ。

マー君：いろいろな魚が獲れるのに、なぜ、お魚のマンション造ってるの？

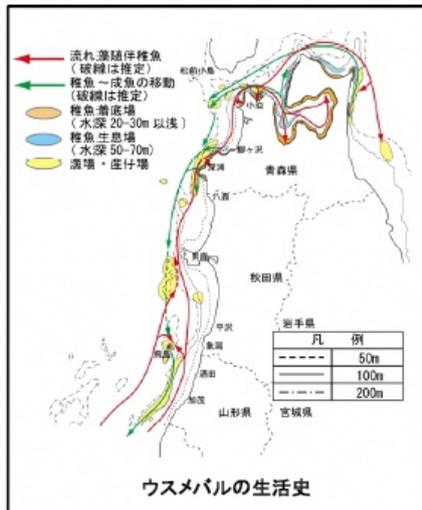
おべ様：それはね、ただお魚を獲るだけだとお魚を獲り尽くしてしまうんだよ。そうならないために、この魚礁を海に沈めて魚を増やしているんだよ。

マー君：へー。みんなみんな考えてるんだね？ん？
 おべ様質問っ。

おべ様：どんな質問かな？

マー君：こんなに広い海のど真ん中に、見た目は大きいけど、海の広さから見ると、小さいものを入れても、お魚が魚礁を見つけられないんじゃないの？

おべ様：まー君、今日は本当に冴えてるねえ（汗タラタラ）。確かに、海の広さを考えると、1 個とか 2 個だと、ただの点でしかないけど、あの魚礁をこの地区では、全部で 30 基海に沈める計画になっているんだよ。それだけじゃなくて、お魚がどんなふうに移り住んでいるか、いろいろ調べられていてそのデータを基に、どの辺にこの魚礁を沈めたら良いか決めてるんだ。いろんな場所でこのような魚礁や藻場礁の整備を行うことで、日本海側



から太平洋側を一つのエリアとして整備しているんだよ。でもマー君には少し難しかったかな？

マー君：うーん。少し難しいかも。でも、いろんな場所で魚礁とかを海に沈めておくと、お魚が増えるってことでしょ？それに、藻場礁のことを友達のブリ子がおべ様から教えてもらったっていったなあ。でもさあ、沈めた魚礁に本当にお魚が住みついているの？

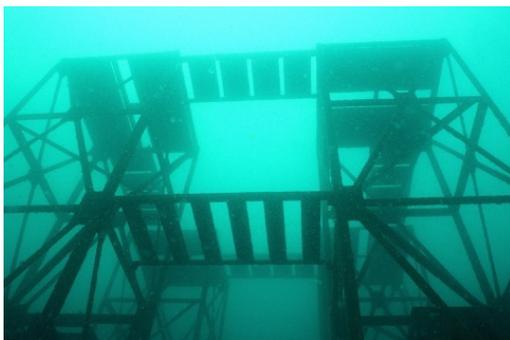
お魚が居なかったらどうするの？

おべ様：本当にどうしたんだ今日のまー君は？（切れすぎている。）

よし、じゃあ海に潜ってみようか？ザブーン！！

マー君：ごぼごぼ（おぼれるー）。

おべ様：大丈夫だよ。これが、海の中の魚礁だよ！



マー君：おべ様、この白くて一杯ぶら下がってるものって何？

おべ様：これがヤリイカの卵だよ。イカはこのようにして、水通しが良くて硬いものに卵を産み付ける習性を持っていて、それを利用して魚礁はこのような構造になっているんだ。

マー君：お魚もいっぱいいるね！これだと魚礁を入れた意味がばっちりだね！ところでこの魚礁を入れることと、環境公共はどのようなつながりがあるの？

おべ様：ナイスな質問だね！まず、魚礁や藻場礁等を設置することで漁場が整備され、この海を環境を保全・改善することが水産資源の維持・生産力の増大につながっていくんだ。そして、地域全体が活性化され、漁村集落が存続していき、水産業がマー君達、次の世代へと継承されていく、それが、この魚礁を沈めていくことと、環境公共の“つながり”なんだよ。

マー君：魚礁を沈めてお魚のマンションをつくるのが、そんなに大きなプランになっていたなんて。すごく勉強になりました。

おべ様：この他にも、この魚礁を造るときに、地域の小学生を工事現場に来てもらって、勉強会を開いたり、地域の漁業関係者で構成されている環境公共推進協議会を開いて今後の管理方法等を検討したりしてるんだよ。

マー君：これで、ずーっと青森県のおいしい魚が食べられること、間違い無しだね！

おべ様：そうだね。子供から大人まで地域全体で、地域のことを考えてみんなで環境を守っていくことに“つながる”まさに環境公共だね。

